

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	吃音		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 日曜集中	教室名	第4校舎401
担 当 教 員	圓越 広嗣	実務経験とその関連資格	現在、関西電力病院に言語聴覚士として勤務。前職場までで13年以上、300症例以上吃音臨床に携わっており、RASS吃音研究会の運営委員を担当している。			
《授業科目における学習内容》						
吃音についての基礎的知識を理解し、対応方法や訓練方法について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テスト(筆記試験)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:都筑澄夫編著「改訂吃音」建帛社 参考図書:都筑澄夫編著「間接法による吃音訓練 自然で無意識な発話への適及的アプローチ」三輪出版						
《授業外における学習方法》						
テキストを読み、予習・復習をしておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
吃音は、表面に出ている症状だけでなくその背後にある症状も理解し、心理的側面を考慮しながら対応する必要があります。吃音者特有の価値観・考え方や吃音悪化要因を理解し、効果的な対応や訓練ができるように、事例を交えて講義します。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	吃音症状と当事者の苦悩について理解できる		プロジェクター	
		各コマにおける授業予定	教科書を用いた講義とグループワーク			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	吃音の種類、発生率、自然治癒率、原因論について説明できる		プロジェクター スピーカー	(予習課題)「改訂吃音」 p8～17
		各コマにおける授業予定	教科書を用いた講義とグループワーク			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	吃音症状、進展段階、吃音悪化要因の説明ができる		プロジェクター スピーカー	(予習課題)「改訂吃音」 p18表2-4、p83図4-3、 p94表4-4、「間接法」p2～27
		各コマにおける授業予定	教科書を用いた講義と、症状の動画視聴			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	直接法と間接法の違いについて説明ができる		プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」 p36～42、p63～73
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	RASS(自然で無意識な発話への適及的アプローチ)の説明ができる		プロジェクター	(予習課題)「間接法」 p30～56
		各コマにおける授業予定	教科書を用いた講義とグループワーク			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	環境調整法の説明ができる	プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」p48～63、「間接法」p58～87
		各コマにおける授業予定	教科書を用いた講義とグループワーク		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	吃音質問紙の情報を分析できる	プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」p48～63、「間接法」p58～87
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク 小テスト1回目		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児の症例を通じて、環境調整法の実際の流れを説明できる	プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」p48～63、「間接法」p58～87
		各コマにおける授業予定	小テスト1回目のフィードバック 教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	環境調整法による指導ができる	プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」p48～63、「間接法」p58～87
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	メンタルリハーサル法の目的が説明できる	プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」p78～121、「間接法」p90～103
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	メンタルリハーサル法の導入について説明できる	プロジェクター	(予習課題)「改訂吃音」p78～121、「間接法」p90～103
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク 小テスト2回目		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人の症例を通じて、メンタルリハーサル法の流れを説明できる	プロジェクター	(予習課題)「間接法」p144～164
		各コマにおける授業予定	小テスト2回目のフィードバック 教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	メンタルリハーサル法の対立内容について説明・作成できる	プロジェクター	(予習課題)「間接法」p144～164
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床の一連の流れを説明できる	プロジェクター	
		各コマにおける授業予定	教科書や資料を用いた講義とグループワーク		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	症例からの様々な質問に対応できる	プロジェクター	
		各コマにおける授業予定	グループワークと講義		